CASE 32
3歳児

「お店屋さんごっこをするよ！」

協力園
大分明星幼稚園

（幼児の実態）

２月になると、子どもたちは、自分のイメージで遊びに必要なものを作ってごっこ遊びをしたり、戸外では他のクラスの友達と一緒にマラソンや固定遊具で遊んだりする姿が見られるようになってきました。

２学期は、年長児から遊園地ごっこに招待してもらい、お客さんになって友達と楽しく遊ぶ体験をしました。今度は、自分たちでお店屋さんを開こうと意欲を見せていました。

子どもたちは、イメージに合う材料で商品作りをして、クラスでお店屋さんごっこをしました。遊んだ後にみんなで話し合うと、お客さんに聞こえるように大きな声を出した方が楽しくなることに気付きました。

「あっー、ほんとにぶどうジュースだ！」とＢ児

「お金、（自動販売機に）入れてください」

自動販売機に「ぶどうのジュース、ください」と言う、お客さんのＢ児

焼き鳥屋の大将になりきっているＡ児

自分たちで修理できるコーナー（子どもが、大きさ･色･素材を選べる）

保育者が布テープを切っておくと、自分たちでクルリンテープを作る子どもたち

「ここは、チョコレート」ドーナツを色ごとに並べていく

各クラスでお店屋さんを開いて1週間が経ち、今日は3クラスが交流する日です。クラスの友達が店員さんとお客さんに分かれて、お店屋さんごっこをします。このクラスの店員さんはコックタイをしめ、お客さんは買い物用のサイドバックを持つことになっています。

店員さんが自分でコックタイをしめて集まると、活動前の話し合いです。保育者は、前日までにみんなで決めていたことを子どもたちの反応を見ながら、ゆっくり分かりやすい口調で話しました。子どもたちは、みんなで決めた『お客さんは、買い物で買える商品は全部で４個。お店屋さんは、お客さんに聞こえるように話すこと』を確認し合って、開店準備にとりかかりました。

子どもたちは、それぞれの店の商品を自分たちで出し、お店に並べます。ドーナツ屋の店員さんは、大きなお皿に「ここは、チョコレート。抹茶は、ここ」と、つぶやきながら並べています。保育者が「チョコレート、抹茶、イチゴに分けて並べているの。考えているね」と褒めると、その子は、並べる手を休めることなく「うん」と答えました。

どの店も商品を並べ終えた頃、保育者は「看板を付けようか」と、布テープをちぎって子どもたちに手渡します。子どもたちは、布テープの粘着面を外にして丸め、自分でクルリンテープを作るとダンボールの裏に貼り、看板としてテーブルに取り付けました。お店の準備ができたようです。保育者が子どもたちの様子を見ながら、開店してよいか尋ねました。保育者の声掛けで、寿司屋の店員さんは商品が壊れていることに気付いたようです。イクラの軍艦を修理するために、帯状に切った黒色の画用紙を自分で見つけて修理をした後、お店に並べました。保育者は、商品を並べる子どもの姿を見守りながら微笑んでいます。

Ａ児は、焼き鳥屋さんになりたい」と意欲満々で、遊びを始めた子どもです。保育者は、子どもたちと一緒に、お店に必要な道具の七輪を２つ作っていました。Ａ児は、両手に持った鶏串が均一に焼けるように、指を上手に使って串をクルクル回したり、鶏の油を落とすように串を七輪の網にトントンさせたりしています。七輪で鶏串を焼く姿は、まるで焼き鳥屋の大将のように見えます。時々、もう片方の七輪に目をやり、鶏の焼け具合も確認しているようです。保育者が「Ａ君、上手に焼くね！」と、褒めると満足そうにうなずきました。

また、Ａ児はお客さんが一度に来ると、『みんな並んで！』と、声をかけます。さらに、お客さんが鶏串を並べているお皿から持っていこうとすると、『まだ、焼いてないよ』と言って串を返してもらい、七輪で焼いて渡すなど、なりきって遊んでいます。

Ｂ児たちは、自分で作ったお金を持って隣のクラスに買い物に行きました。このクラスには自動販売機があり、店員さんは帽子をかぶっています。お客さんのＢ児が、ダンボールで作っている自動販売機の前で『ぶどうのジュース、ください』と言うと、中から『お金、入れてください』と声がしました。Ｂ児が画用紙を四角に切って作ったお金を投入口に入れると、店員さんは、注文通りに『ぶどうの絵が貼ってあるペットボトル』を扉の付いた下の窓からお客さんが取れるように準備します。自動販売機からゴロンとペットボトルの転がる音がして、Ｂ児が手を入れて取り出すと、『あっー、ほんとにぶどうジュースだ！』。Ｂ児は、自動販売機で自分の欲しいジュースを買うことができました。

遊んだ後の振り返りで、買ったものを紹介し合いました。子どもたちは、買ったものを見せながら、楽しく買い物ができたことを話します。中には、隣のクラスにあったレジスターに気付き、『先生、レジがいる！』と、伝えていた子どももいました。明日は、店に必要な物を作るのかもしれません。楽しいお店屋さんごっこは、まだまだ続きそうです。

事例から見られる10の育ち

自立心

子どもは、お店屋さんごっこをしようと、自分でコックタイをしめたり、お店の仲間と商品を並べたりしている。繰り返し遊ぶ中で、並べ方や看板の付け方の工夫、商品の確認など、お客さんの立場になって考えるようになっていると思われる。

Ａ児は、お客さんに並んでほしいことや、焼いたものを買ってほしい思いを言葉で伝えている。なりきって遊ぶことで、自分の思いを臆せず表現し、満足感を味わっていると考える。また、Ｂ児は欲しいものを伝え、店員と言葉でやり取りしながら、買い物を楽しむことができたと思われる。

子どもは、難しいところを大人や友達に手伝ってもらいながら、自分の力で楽しむ体験を繰り返していく。５歳児の後半には、友達と関わる中で諦めずにやり遂げ、達成感を味わうようになると考える。

事例から見られる10の育ち

豊かな感性と表現

Ａ児は作った鶏串や七輪を使い、串を焼く手つきや視線など、焼き鳥屋さんになりきって表現を楽しんでいた。Ｂ児は、お金を入れると欲しいジュースが出る本物のような仕組みに驚き、友達の作ったものに感心していた。子どもは、生活の中で心を動かす出来事に触れ、自分なりの表現を楽しみ、友達の表現方法にも気付きながら遊んでいくと思われる。

５歳児の後半には、考えたことや感じたことを自分で表現したり、友達と認め合ったりし、多様な表現になっていく過程を楽しむようになると考える。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」

- 思考力の芽生え
- 協同性
- 社会生活との関わり
- **自立心**
- **豊かな感性と表現**

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

自立心
保育者の援助・環境構成のポイント

先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わえる安心できる関わりや環境構成をする

- **自分で考え、自分で行動できるような援助や環境構成**
  子どもが自分で考え、しなければいけないことに気付くような言葉かけや、じっくり考えられる時間の確保。
  自分で自分のことができるように、簡単に身に付けられるアイテムの工夫。
- **遊びを楽しみながら、考えたり工夫したりできるような援助や環境構成**
  子どもの工夫していることや考えたことなどを具体的に褒める言葉かけ。子どもがなりきって遊ぶことができるイメージのわく道具（鶏串、七輪）や、すぐに使える材料の準備。